公開レクチャー

イメージング・アジア

―〈リバランス〉再調整期のアジア協同体を想起する―

企画確定版

開催趣旨

2012 年、米国オバマ政権は「アジア回帰」政策（のちに「アジア・リバランス（再均衡）」政策と改名）を発表しました。成長著しいアジア太平洋地域に地政学的戦略の軸足を置くことを示すためであるとされています。この政策は発表当時から、さまざまな称賛・非難の声と解釈、反応を引き起こしました。しかし、この発表から 2 年が経過し、その間かつて軸足を置いた中東におけるアメリカの対応も二転三転し、オバマ政権内では最近、国務長官および国家安全保障担当大統領補佐官などばかりか国防長官までもが交代するといった迷走を続けています。また、エジプトやシリア、イラン、クリミア半島、ウクライナなど、世界の他の地域に米国の注意を向ける必要があることから、この「アジア・リバランス（再均衡）」政策はすでに行き詰まっているという声も一部にあります。かといって、軸足をいくつも抱えて迷走すれば、「帝国」の自壊がさらに早まることは歴史のよく語るところでもあります。

いわば、「アジア・リバランスのリバランス」という奇妙に展開する世界情勢のなかで、〈アジア〉というコンセプトがどのようなイメージ喚起機能を果たしていくのか、あらためて問われているといえましょう。

現在、〈アジア〉再定義の要請が高まっている要因の第一には、21 世紀初頭において顕著な経済成長を遂げる中国の存在があります。それは「中国はアジアなのか」という〈中国〉の定義をめぐる問題とも相関しています。〈アジア〉が強調されれば〈中国〉の存在は希薄化され、その逆に〈中国〉が強調されれば〈アジア〉の存在は周辺化されるといった方程式の中に閉じ込められたままであるともいえましょう。

厄介であるのは、両者ともに曖昧な定義によるイメージとして浮遊していることです。これは「アメリカはアジアなのか」という問いともパラレルな関係を構築し、事態をよりいっそう複雑なものにしています。さらに言えば、リバラン

スの起点にもなっていた「中東」は〈アジア〉なのかという問題すら惹起するのだといえましょう。マレーシア航空機の墜落したウクライナ問題から ISIS や東アジアの日中韓関係の危機などとの連動が論点となるのも、まさにそうした複雑さゆえであるともいえましょう。

EU のようにすでにある種のパラメーターによって存在を示すことのできる〈地域〉とは異なり、〈アジア〉はそれを問題にしようとする発話主体の「意図」によって伸縮する概念です。

たとえば、「それぞれの民族国家の政治的境界を越え、一つの想像上の政治空間を構築し、対内的には国家中心主義を解体し、対外的には欧米の覇権に抵抗する」、といった「意図」によってそれが発話されようとする時には、そのような意義あるものとして提示されるでしょう。「アジアからの思考」「アジアからの世界史像の構築」等々という発話意図の多くは、オリエンタリズム的思考から逃れてポストコロニアルなイメージを〈アジア〉という表象に与えようとすることにあります。

しかし、そうした「意図」とは異なる方向から、そもそもアジアを「一つの歴史世界」として扱うことは可能なのかと問われれば、たちまちさまざまな反証に出会うことになります。

〈アジア〉再定義の動向はそうした「意図」のありようによりさまざまな可能性をもつことになり、結局〈アジア〉は「定義」できなくなります。しかし、にもかかわらず、現在〈アジア〉は何かまとまった〈地域〉としてイメージング可能な諸要素を備えているようです。それは経済社会のネットワークの実態がそれを裏づけているからであり、メディアの相互浸潤によって一定の情報の拡散が行われているからでしょう。もっとも、情報の量的拡大が「アジア人アイデンティティ」を構築するほどの質的変化をもたらしているわけではないのかもしれません。

アメリカの対外政策における「リバランスのリバランス」が、必ずしも過去の「中東」問題の処理が終わっていないといった状況を単純に指しているのではないことは明らかです。そこに中国はじめロシアなどをも含めた新たな情勢の質的転換の徴候を見出す必要があります。今回のレクチャーでは、そうした諸点をめぐって、総合的分析を可能にするブレーンストーミングを行います。（コーディネーター：鈴木規夫）

開催日程　2015 年 1 月 6 日(火)～7 日(水)

1 月 6 日（火）

公開レクチャーα（会場：愛大名古屋校舎講義棟 L805）

10 時 45 分～12 時 15 分

開催趣旨説明　鈴木規夫

レクチャーⅠ　〈リバランス〉再調整期のアジア協同体
—土台的視座から

小倉利丸（富山大学教授）

12 時 15 分～13 時　ランチ

公開レクチャーβ（会場：愛大名古屋校舎講義棟 L805）

13 時～14 時 30 分

レクチャーⅡ　〈リバランス〉再調整期のアジア協同体
—欧米中心主義の断末魔を聴く

板垣雄三（東京大学名誉教授）

レクチャーⅢ　〈リバランス〉再調整期のアジア協同体
—カイロ的視座から

長澤榮治（東京大学教授）

1 月 7 日（水）

公開レクチャーγ（会場：愛大名古屋校舎講義棟 L706）

14 時 45 分～16 時 15 分

レクチャーⅣ　〈リバランス〉再調整期のアジア協同体
—歴史的視座から

バラック・クシュナー（ケンブリッジ大学准教授）

レクチャーⅤ　〈リバランス〉再調整期のアジア協同体
—平和構築的視座から

グレン・フック（シェフィールド大学教授）

16 時 15 分～16 時 30 分　休憩

16 時 30 分～18 時

レクチャーⅥ　〈リバランス〉再調整期のアジア協同体
—上海的視座から

臧　志軍（復旦大学教授）

コメント　板垣雄三（東京大学名誉教授）

武者小路公秀（国連大学元副学長）

加々美光行（愛知大学名誉教授）

玉本　偉（The World Policy Institute, Senior Fellow

質疑応答

開催場所　愛知大学名古屋校舎講義棟 L805（公開レクチャーα・β）
L706(公開レクチャーγ)

参加名簿

コーディネーター：鈴木規夫/愛知大学教授＊

武者小路公秀　国連大学元副学長

板垣雄三　東京大学名誉教授

グレン・フック　シェフィールド大学教授＊

長澤榮治　東京大学教授

小倉利丸　富山大学教授

玉本　偉　世界政策研究所主任研究員

臧　志軍　復旦大学教授＊

バラック・クシュナー　ケンブリッジ大学准教授＊

加々美光行　愛知大学名誉教授

その他、NIHU-ICCS 政治外交班メンバー

共催：

愛知大学国際コミュニケーション学部アジア協同体論講座

同国際コミュニケーション学会

同国際中国学研究センター（政治外交班）